

教育長様

校番 009 尾道東 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
令和元年度 報告書****1 研究の概要****研究の目標**

社会問題に関心を持ち、学校から一歩外へ出て多様な人々と交流していく中で、自ら課題を設定し、他者と協働して解決策を探究し、提案することができる「資質・能力」を身に付けた生徒を育成するという視点に立ち、本校で付けたい7つの「資質・能力」のうち、特に第2学年で付けたい力を育成するための指導法・評価方法を確立する。

研究内容（※対象，時期，方法を含む）

○総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について

1 探究のプロセスを明確にした指導計画の作成と実施について

今年度の研究は、特に第2学年で付けたい力を育成するための指導法・評価方法を確立することを目的としていたため、第2学年の「総合的な探究（学習）の時間」を中心に全体計画の作成と実践を行った。

第2学年では「模擬国連 at 尾道東」を実施した。「模擬国連 at 尾道東」とは、国際問題に関心を持ち、理解し、その解決策の探求を促進する態度を育成するとともに、豊かな国際感覚を持って未来の国際社会・地域社会に貢献する人材を育成することを目的に平成30年度から始めた取組である。

今年度は「環境問題・ゴミ問題」をテーマに、各グループで担当国を決めて調査を行い、その調査結果を、修学研修旅行の大使館訪問で各国大使等に対してインタビューをしたり問題の解決策について提案したりして、それに対する批評をいただいた。修学研修旅行後は、実現可能な解決策を見出だすための議論ができるよう、大使館訪問で得た情報などを参考に模擬国連の実施に向けて準備を行い、最後は世界の「環境問題・ゴミ問題」解決に向けた提言を行った。

昨年度の先行研究において挙げた「他者からの指摘を受けてさらに議論を深める活動ができなかった」という反省を生かし、今年度は探究のプロセスに基づいた全体像を整理し、実践することができた。

2 生徒の課題設定やアウトプットに関する指導の工夫について

生徒の課題設定についての工夫としては、特に第2学年の「総合的な学習の時間」において単にグループワークを行うのではなくワールドカフェ形式を用いて多様な意見を引き出すことや、発表やポスターセッションを通して他者から指摘をもらう機会を増やすよう工夫をした。他者からの指摘を受けることで、生徒自身が様々な視点から「環境問題・ゴミ問題」について考察し、新たな課題の設定やそれを解決するための方策について考えることができた。その結果、昨年度よりも様々な立場や観点を踏まえた提言が生まれ、一定の成果を得ることができた。

アウトプットの工夫については、「模擬国連 at 尾道東」のまとめとして行った「ゴミ問題・環境問題」に関する小論文の作成において、作成時の着眼点を与える工夫を行った。小論文の下書きの際にそれぞれの「資質・能力」を着眼点として与えることで生徒自身がそれらの「資質・能力」を意識した小論文を作成することができた。また自らの小論文を、評価ルーブリックに基づいて評価させることで、自分自身の現状を捉えることができた。

3 「総合的な探究（学習）の時間」と他の教育活動（各教科や特別活動等）との関連付けの工夫について

本校においては、「総合的な探究（学習）の時間」と各教科の授業で相互還流的に「資質・能力」を育成することを目指している。11月に行われた公開研究授業においては、「総合的な探究（学習）の時間」の授業実践に加えて、数学科と家庭科において「資質・能力」を育成するための授業実践を行った。また、年2回の授業旬間においても、「資質・能力」の育成を目指した授業研究を行うことができた。

校内体制については、多くの教員が研究に携われるよう特定のグループを作らず、その都度参加できる教員で議論を行い、その内容を、教科主任会議を通じて各教科へ周知した。また「総合的な探究（学習）の時間」においては、各学年団を中心として、取り扱う内容の方向性を決めていった。来年度は、校務分掌に新しく教育研究部が組織されるため、教育研究部を中心とした校内体制を整える予定である。

○資質・能力の評価について

1 学校全体で取り組むための工夫について

全体で共通の認識を持って取り組んでいくために、4月に校内研修を行い本校の取組や本校で付けたい「資質・能力」の説明、評価の実践を行った。本校では「資質・能力」を「思考力」と「コミュニケーション力」を2つの軸として捉えており、そのうちの「思考力」については7つの「資質・能力」に分類している。8月には7つの「資質・能力」のうち「理由づける力」についての校内研修を行い、その必要性和評価のあり方について周知を行った。

また、「総合的な探究（学習）の時間」のみならず、学校の教育活動全体を通して「資質・能力」を育成するという視点から、授業においてもそれらを育成するための授業づくりについて、各教員が取り組んでいる。

今後は、各教科のどの単元でどのような「資質・能力」を育成することができるかをシラバスの項目に明記し、それをもとに作成するカリキュラムマップを活用していくことで、学校全体で「資質・能力」を育成する体制を作っていく。

2 学習活動ごとのルーブリックの作成と活用について

本校においては、本校で付けたい「資質・能力」のうち、「思考力」について7つの「資質・能力」を設定しているが、その全てを網羅しながら育成することは難しいため、各学年で特に付けたい力を設定し研究を進めている。

「総合的な探究（学習）の時間」においては、1年間を通して生徒が作成した成果物に合わせてルーブリックを作成し、評価を行うことができた。各教科においても、教科の特性にあった表現となるよう修正を加えてルーブリックを作成し、それぞれの授業で特に付けたい「資質・能力」について評価を行うことができた。

3 教員及び生徒のルーブリックの活用について

教員のルーブリックの活用については、「思考力」を分類した7つの「資質・能力」のルーブリックは、各教科への汎用性が高く、今年度行われた研究授業や、各教員が作成した指導案のほとんどに用いることができた。

例えば、数学科の数学Ⅲ「複素数平面」の研究授業においては、「予測する力」の育成を目指した授業実践を行い、ルーブリックを用いて行った評価をその後の授業計画に活かすことができた。また、定期考査においては全教科で知識・技能を活用する活用問題を作成し取り入れており、教科によってはその採点基準となる資質・能力の側面を含んだルーブリックも提示することで、生徒もそれを踏まえて回答できるよう工夫をしている。

一方で、生徒のルーブリックの活用については、これらの7つの「資質・能力」の図を作成し、視覚的に理解しやすくなるような工夫を行っているものの、ルーブリックを生徒自身が活用した場面としては、「模擬国連 at 尾道東」の小論文作成後の自己評価の際に用いることができただけであり、十分な活用にはいたっていない。

今年度の成果と課題

成果 1 3年間を見通した全体計画を再編できた点

令和元年度は第2学年の「総合的な学習の時間」の充実を図ることを中心に研究を進めてきたが、令和2年度に向けての準備として、第3学年の課題研究についても試行的に取組を行った。その中で、現在の3年間の「総合的な探究（学習）の時間」のカリキュラムのままでは本校が目指す生徒像を十分に育成できないのではないかと、との考えから各学年での取組内容を見直すこととなり、「総合的な探究（学習）の時間」の全体計画の改善を行うことができた。その計画に基づき、令和2年度の第1学年の「総合的な探究の時間」については、新しい取組を入れながら引き続き研究を行っていく予定である。

2 校内における協力体制が構築されつつある点

昨年度は教科主任会議を中心に、指導法や評価方法について検討を行ってきた。今年度は、長期休業中や放課後などの時間を利用して、本校教員に参加してもらうよう声掛けをしたところ、ほとんどの本校教員が参加し、様々な角度からの意見をもとに研究を進めることができた。その結果、昨年度から作成していたコミュニケーション力のルーブリックを完成することができた。

課題 1 生徒の自己評価の場面設定が少ない点

「思考力」を分類した7つの「資質・能力」について、生徒への周知を行うことはできているが、それを生徒自身が用いて、それらの力を身に付けよう意識をした上で学習活動を行うことができていない。「資質・能力」の育成を図っていくためにも、生徒が自己評価を行う場面を多く設定していく必要がある。

2 来年度の研究の進め方の工夫が必要な点

今年度試行的に取組を行った第3学年の課題研究においては、探究のプロセスに基づいた研究を進めることができなかった。課題研究に掛かる時間を十分に確保するために、第2学年についても3学期から課題研究についての講演会を実施するなど先行して取組を進める予定であったが、臨時休校等の対応のため実施できなくなってしまった。ただし、幸いにも教員を対象とした研修を行うことが可能となり準備を進めているところである。来年度は限られた時間数の中で、年間計画に基づいて適切な時間数を確保し、研究を進めていく必要がある。

次年度の目標及び取組内容

次年度の目標

社会問題に関心を持ち、学校から一歩外へ出て多様な人々と交流していく中で、自ら課題を設定し、他者と協働して解決策を探究し、提案することができる「資質・能力」を身に付けた生徒を育成するという視点に立ち、前述の本校で付けたい7つの「資質・能力」のうち、特に第3学年で付けたい力の育成のための指導法・評価方法を確立する。

取組内容

- ・令和元年度に再編した全体計画に基づき、1～3学年までの系統性を持った「総合的な探究（学習）の時間」の実践を行う。
- ・令和元年度に試行的に行った第3学年の課題研究を、令和元年度の反省を踏まえて実践する。
- ・本校で作成したコミュニケーション力のルーブリックが実用的で活用できるものか実践を行う。また、生徒自身の自己評価に用いる。
- ・現在作成中の「資質・能力」ベースのカリキュラムマップに基づき、「総合的な探究（学習）の時間」のみならず、各教科の授業においてもそれらを育成していくための取組を行っていく。
- ・教科以外の行事や特別活動において「資質・能力」を育成するための方策について検討する。